

鶴岡工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	英語Ⅲ	
科目基礎情報							
科目番号	0029		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		履修単位: 2		
開設学科	創造工学科（電気・電子コース）		対象学年		2		
開設期	通年		週時間数		2		
教科書/教材	アトラス総合英語 ATLAS English Grammar Navigator in 27 Lessons（桐原書店）, ATLAS English Grammar Navigator Workbook（桐原書店）, 音読英単語 入門編（Z会）						
担当教員	田邊 英一郎,富樫 恵						
到達目標							
1 基礎的な英文法を一通り習得する。 2 基礎的語い、学習した文法事項をもとに英文が正確に書ける。 3 基礎的語い、学習した文法事項をもとに英文を読み、内容を正確に理解できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		高校中級レベルの文法が理解でき、定着している。		高校初級レベルの文法が概ね理解できている		中学校レベルの文法が理解できない。	
評価項目2		高校中級レベルの語いを、英文を読んで理解できる。		高校初級レベルの語いを、英文を読んで理解できる。		中学校レベルの語いを、英文を読んで理解できる。	
学科の到達目標項目との関係							
(F) 論理的表現力と外国語によるコミュニケーションの基礎能力を身につける。							
教育方法等							
概要		ごく限られた時間で英語を効果的に学習するには、英文法を体系的に学ぶことが不可欠であることを大前提とする。中学校および本校1年生のときに身につけた英文法の知識をより確かなものにし、さらに一歩進んだ英文法を学習する。また、単語力を強化するために、英単語集を使った学習も行う。 新型コロナウイルス感染予防の観点から遠隔授業としてコンテンツ配信型（オンデマンド）に切り替わる場合もある。					
授業の進め方・方法		一定時間の中で各自問題に解答し、その後答え合わせ、教師による解説という形で授業を進める。単語力の強化については、小テスト（あらかじめ指定された範囲から出題）をほぼ授業のたびに行う。					
注意点		正解を教えられるまで待つのではなく、まず自分の答えを書いてみるのがとても大切です。また、自分の解答が正解であっても、不正解であっても、その理由を自分なりにしっかりと理解してください。意味が分からない単語や連語を見つけたときは、すぐに辞書を引いて意味を調べることもとても大切です。辞書は毎回必ず持参すること。授業計画は予定なので、授業を進めていく中で、多少変更されることもあります。					
事前・事後学習、オフィスアワー							
【オフィスアワー】授業日の 16:00-17:00							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	はじめに：品詞・英語の語順ルール 序章：文の種類		品詞・語順・文の種類に関する基礎的なルールを理解し、演習を通じて定着できる。		
		2週	1 章：時制（1）		時制の基礎的なルールを理解し、演習を通じて定着できる。		
		3週	2 章：時制（2）		時制に関する様々なルール・表現理解し、演習を通じて定着できる。		
		4週	3 章：完了形（1）		完了形の基本的な意味と表現を理解し、演習を通じて定着できる。		
		5週	4 章：完了形（2）		完了形に関する様々なルール・表現を理解し、演習を通じて定着できる。		
		6週	5 章：助動詞（1）		助動詞の基本的な意味と表現を理解し、演習を通じて定着できる。		
		7週	6 章：助動詞（2）		助動詞に関する様々なルール・表現を理解し、演習を通じて定着できる。		
		8週	7 章：助動詞（3）		助動詞に関するやや高度なルールを理解し、演習を通じて定着できる。		
	2ndQ	9週	8 章：態（1）		態（能動態／受動態）の基礎的なルールを理解し、演習を通じて定着できる。		
		10週	9 章：態（2）		態（能動態／受動態）に関する様々なルール・表現を理解し、演習を通じて定着できる。		
		11週	1 0 章：不定詞（1）		不定詞の基本的な意味・用法を理解し、演習を通じて定着できる。		
		12週	1 1 章：不定詞（2）		不定詞に関する様々なルール・表現を理解し、演習を通じて定着できる。		
		13週	1 2 章：不定詞（3） / Plus 不定詞		不定詞に関するやや高度なルールを理解し、演習を通じて定着できる。		
		14週	1 3 章：動名詞（1）		動名詞の基本的な意味と用法を理解し、演習を通じて定着できる。		
		15週	1 4 章：動名詞（2）		動名詞に関する様々なルール・表現を理解し、演習を通じて定着できる。		
		16週					
後期	3rdQ	1週	1 5 章：分詞（1）		分詞に関する基礎的なルールを理解し、演習を通じて定着できる。		

		2週	1 6 章：分詞（２） / Plus 分詞	分詞に関する基礎的なルールを理解し、演習を通じて定着できる。
		3週	1 7 章：関係詞（１）	関係詞に関する基礎的なルールを理解し、演習を通じて定着できる。
		4週	1 8 章：関係詞（２）	関係詞に関する様々なルール・表現理解し、演習を通じて定着できる。
		5週	1 9 章：関係詞（３） / Plus 関係詞	関係詞に関するやや高度なルールを理解し、演習を通じて定着できる。
		6週	2 0 章：比較（１）	比較級・最上級に関する基礎的なルールを理解し、演習を通じて定着できる。
		7週	2 1 章：比較（２） / Plus 比較	比較表現に関する様々なルール・表現を理解し、演習を通じて定着できる。
		8週	2 2 章：仮定法（１）	仮定法に関する基礎的なルールを理解し、演習を通じて定着できる。
	4thQ	9週	2 3 章：仮定法（２）	仮定法に関する様々なルール・表現理解し、演習を通じて定着できる。
		10週	2 4 章：否定	否定に関する様々なルール・表現理解し、演習を通じて定着できる。
		11週	2 5 章：代名詞（１）	代名詞に関する基礎的なルールを理解し、演習を通じて定着できる。
		12週	2 6 章：代名詞（２）	代名詞に関する様々なルール・表現理解し、演習を通じて定着できる。
		13週	2 7 章：様々な表現と構文	英語表現への理解を深め、演習を通じて定着できる。
		14週	Option（１）：文型・品詞	文型・品詞の種類とその用法への理解を深め、演習を通じて定着できる。
		15週	Option（２）：時制の一致と語法	時制の一致と語法への理解を深め、演習を通じて定着できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	前11
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	
			英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	2	
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	2	
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	2	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	2	
				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	2	
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	2	
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	2	
				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	2	

				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略 (ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	2	
評価割合						
	定期試験	取り組み	小テスト	提出物	合計	
総合評価割合	70	10	10	10	100	
基礎的能力	70	10	10	10	100	